中古文学会 2024 年度春季大会 開催案内

【重要】 会員のみなさまへ

2024 年度春季大会の開催形態につきましては、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることといたしましたので、お知らせ申し上げます。ご了承の上、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

（1） 春季大会は、全プログラムを対面にて開催しますが、参加には**事前申し込み**が必要です。

（2） 現地参加が困難な方々のことも勘案し、シンポジウム・研究発表等を録画しまして、大会日程終了後、事前申し込みをされた会員に限って視聴できるようにします（学会ポータルデスクの協力を得て録画いたしますが、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もありえます）。なお、視聴後に質問等を行うことはできません。

（3） 会員外の方も、事前申し込みにより現地参加を可とします（ただし、懇親会への参加、昼食の注文、録画視聴は不可とします）。参加費（1,000 円）は、当日、現金でお支払いください（お釣りのないようご準備ください）。

（4） 1 日目に懇親会（昨年の秋季大会と同様の立食スタイル）を開催します。参加を希望される方は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください（当日の申し込みはできません）。懇親会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 4,000 円です。懇親会の形態については、今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外は返金できませんのでご了承ください。

（5） ２日目の昼食（お弁当）の販売を行います。希望される場合は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください（当日の申し込みはできません）。昼食代（お茶付）は、1,300 円です。なお、休憩室での飲料等の提供は行いませんので、必要に応じて各自でご用意ください。

（6） 現地参加、録画視聴のいずれの場合でも、**同封の振込票によって必ず事前申し込みを行ってください**。いずれも大会参加費（資料集代を含む）は 1,000 円です。なお、「資料集」の PDF による配付は行いません。

（7） 事前申し込みの方には、現地参加、録画視聴にかかわらず、大会の前（5 月上旬を予定）に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送します。現地参加の方は、必ず「資料集」を会場に持参してください。また、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。

（8） 今後の感染拡大などの状況によっては、大会の全プログラムを遠隔開催とすることもありえます。開催形態を変更する場合は、5 月上旬までに学会公式サイトにその旨を掲載します。

◇ そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に関する事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。 中古文学会事務局

中古文学会公式サイト https://chukobungakukai.org/

大会日程・大会会場

大会日程	5 月 25 日（土） 13:00～17:00 （12:30 より受付開始） シンポジウム 17:30～19:30 懇親会 5 月 26 日（日） 10:10～15:25 （9:40 より受付開始） 研究発表会(午前)、委員会、研究発表会(午後)
大会会場	**東京学芸大学 中央 2 号館（南講義棟）** 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
懇親会会場	**東京学芸大学 第 1 むさしのホール**

大会参加要領

１．大会参加費

・参加費（資料集代を含む）：現地参加、録画視聴いずれも 1,000 円
・懇親会：一般会員 6,000 円、学生会員 4,000 円
・昼食代（２日目）：1,300 円
※入金された参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。
※領収書は、振込受領証に替えることとし、別途発行することはしません。

２．申込方法

・同封の振込票による入金をもって申し込みを承ります。必要事項をご記入の上、上記の額をご入金ください。
・加入者名　中古文学会大会実行委員会
・口座番号　00240-3-99727

３．会員外の方の申込方法

・学会公式サイトより申し込み締切までにお申し込みください。
・申し込み時にご記入いただいた個人情報は、本大会の運営管理にのみ使用させていただきます。
・参加費（1,000 円）は当日会場受付にて現金でお支払いください（お釣りのないようご準備ください）。

４．申込締切

2024 年 4 月 26 日（金） ※締切後の申し込みは承ることができません。
※締切後の入金は固くお断りいたします。

５．住所・所属等の変更

・住所・所属等の変更は、学会公式サイトの「会員ページ」をご利用ください。同封の振込票に記載されても、変更について承ることができません。

６．学会費の納入

・同封の振込票は【大会参加費専用】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。

７．出張依頼状

・氏名・職名・提出先（所属長名）を明記の上、ポータルデスクへメールでお申し込みください。

８．会場について

・キャンパス内は全面禁煙です。
・駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

・大会期間中、学内食堂は営業していません。会場周辺にコンビニエンスストアはありますが、会場から徒歩で片道 8〜10 分程度時間がかかります。

9．宿泊について

・各自で早めにご予約ください。

10．交流広場（フリースペース）

・以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。

用途：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。

資格：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。

申込：氏名（団体の場合は団体名および代表者名）・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、**4 月 26 日（金）まで**に大会実行委員会へメールでお申し込みください。

注意：スペースに限りがあるため、申し込み先着順で受け付けます。
広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。
当日は、受付で利用手続きをしてください。
交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込み、管理は各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。

11．臨時託児室

・以下の要領で臨時託児室を開設します。

日時：5 月 25 日（土）12:30〜17:30、26 日（日）9:40〜15:40

対象：生後 8 週間を経過した乳児から小学 6 年生までの児童

運営：パソナフォスター

場所：Miracle Kids Gakugeidai（こどモードハウス、学内施設）

料金：無料（学内基準を準用）。

申込：保育対象者の人数・年齢・利用日および時間帯を明記し、**4 月 26 日（金）まで**に大会実行委員会へメールでお申し込みください。折り返し、詳細な手続き等をご案内します。

12．問い合わせ先

・大会全般に関すること

中古文学会事務局
〒162-8644　東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内
E-mail：info@chukobungakukai.org

・参加申込、参加費納入、出張依頼状に関すること

中古文学会ポータルデスク
〒111-0041 東京都台東区元浅草 2-10-11 吉延ビル 4F 株式会社新典社内
E-mail：info@chukobungakukai.org

・会場、交流広場、臨時託児室に関すること

中古文学会大会実行委員会
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学教育学部 斉藤昭子研究室内
E-mail：asaito@u-gakugei.ac.jp

大会プログラム

会　場　　東京学芸大学

【ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・研究発表会】　中央 2 号館 4 階　S410 教室

【休 憩 室】　中央 2 号館　4 階　S401 教室・S402 教室・S404 教室

【委 員 会】　中央 2 号館　4 階　S403 教室

【書籍販売】　中央 2 号館　4 階　S405・S406・S407 教室

【交流広場】　中央 2 号館　4 階　S402 教室

【臨時託児室】　Miracle Kids Gakugeidai（こどモードハウス）

懇親会会場　東京学芸大学 第 1 むさしのホール

第 1 日　5 月 25 日（土）

12:30	**受付開始**
13:00-13:10	**開会の辞**　東京学芸大学 人文社会科学系長　木村　守
13:10-17:00	**シンポジウム** **「物語論を奪還する――日本語古典文学研究から、架橋する人文知をめざして――」** 趣意説明　東京学芸大学　斉藤昭子 〔基調報告①〕 現代言語学および物語論と中古文学研究 お茶の水女子大学　橋本陽介 〔基調報告②〕 感覚を表す用言と『源氏物語』の語り 学習院大学（非常勤）　富澤萌未 〔基調報告③〕 「物語論」、その可能性を押し拓く 相模女子大学　高木　信 パネリストの間での質疑 ……休憩（15:00-15:30）…… 討 議　〈司会〉斉藤昭子
17:30-19:30	**懇親会**

第２日　５月 26 日（日）

9:40	受付開始
10:10-11:30	研究発表会（午前） 〔研究発表①〕 『源氏物語』における明石の君の待遇表現 開成中学校・高等学校／早稲田大学［院］　新井　隆 〔研究発表②〕 『源氏物語』外戚大臣家の没落 ――女君の「末の世」「世の末」の意識を端緒として―― 東京大学［院］　宮内理伽 ……休憩（11:30-13:00）・委員会（11：40-12：10）……
13:00-15:20	研究発表会（午後） 〔研究発表③〕 紫の上の宿世について ――藤壺との対比と『源氏物語』の構造―― 総合研究大学院大学［院］　石原知明 〔研究発表④〕 「若菜上・下」巻における二つの算賀の〈差異〉をめぐって ――「四方四季」に配された六条院の、各町の空間配置との係わりから―― 神奈川大学［名］　深澤　徹 ……休憩（14:20-14:40）…… 〔研究発表⑤〕 「落葉宮論」の前提　大阪大学［院］　飯田実花
15:25-16:15	総　会
16:15-16:20	閉会の辞　中古文学会代表委員　陣野英則

※中古文学会春季大会開催に合わせ、東京学芸大学附属図書館において東京学芸大学所蔵の資料展示（「出会う、学ぶ『源氏物語』（仮）」）を開催する予定です（5 月 25 日より 開期未定）。

シンポジウム　　5月25日（土）

物語論を奪還する ――日本語古典文学研究から、架橋する人文知をめざして――

趣意説明　　東京学芸大学　**斉藤昭子**

〔基調報告①〕**現代言語学および物語論と中古文学研究**

お茶の水女子大学　**橘本陽介**

〔基調報告②〕**感覚を表す用言と『源氏物語』の語り**

学習院大学（非常勤）　**富澤萌未**

〔基調報告③〕**「物語論」、その可能性を押し拓く**

相模女子大学　**高木　信**

パネリストの間での質疑

討　議　　〈司会〉**斉藤昭子**

【趣　意】

本シンポジウムでは古典分野から出発し、日本語物語文学の表現・形式について再考する。日本語古典物語文学、特に源氏物語における表現・形式に関する研究の歴史は長い。牡丹花肖柏・三条西実隆『弄花抄』には、「作者をあらはさすして聞つたへたる事を書置たる物にみせ侍り」との記述があり、物語内に「作者」とは別の存在が設えられていることを指摘していた。物語の文章が、多様な声が重なる立体的なものであること、それは前近代の段階から、古典研究における「常識」であった。

近代に入ってからも、物語の文章の立体性、重層性は様々に論じられてきた。中世源氏学に由来する「草子地」の分析は、現代の物語論につながる玉上琢彌の物語音読論、「三人の作者」説を生み出した。1970年代からまずは「語り」の問題として、西欧におけるナラトロジーの進展と切り結びつつ、あるいはそれらと対話しつつ展開することとなった。その後も物語論は「視点」、「人称」、「話法」などさまざまな切り口から深められていく。

共通テストの国語の出題をめぐる論議からも明らかなように、またニュース等における「ナラティブ」の語の用法から見るに、近年、言葉によるコミュニケーションを「情報」の名のもとにフラット化していく傾向が顕著である。しかし私たちは、さまざまな水準の言葉が折りかさなる世界を生きている。平板化された情報を読みとく能力だけでは、私たちは生活を営めないし、自分たちを取りまく環境を把握することもできない。古典文学研究を志す学生たちから、「「語り論」はよく理解できていないのですが……」との前置きをしばしば聞くようになった。現在の私たちは、積み重ねられてきた知をどこまで批判的に吸収し、応答できているだろうか。あらためて体系的に把握し直し、基礎的な研究方法として継承していく必要を強く感じる。

重層的・立体的な言葉の世界を把握する力を取りもどす。その第一歩となる提案を、多

様な声を分析する方法を蓄積してきた、物語文学研究の側から発信したい。今回はより日本語、和文の性質に目を凝らし、基本的なことを確認しつつ議論を進める。一つの軸となるのは、古くから注目され「うつり詞」（中島広足）という語で捉えられた文章の特質に関わり、現在「自由直接／間接言説」（三谷邦明）、「物語人称」（藤井貞和）等の術語で、各論者が説明している源氏物語の文章の特質である。ここを出発点とする考察から、これまでの物語論を継承しつつ深め、その応用可能性を探り、広く隣接諸分野へ架橋する人文知を本学会から発信することをめざすものである。　　（斉藤昭子）

〔基調報告①〕

現代言語学および物語論と中古文学研究

橋本陽介

物語論のような西洋の文学理論は、日本文学に適用される場合、すでに作られた理論を当てはめることで終わってしまうことが多い。しかし発表者は一貫して、逆のアプローチ、すなわち日本語や中国語のテクストに沿った研究を行うことによって、西洋の理論では見えないことを解き明かそうと考えている。現代言語学や物語理論と中古文学研究の交渉は多いとは言えない。中古文学の言語研究にも、物語の特質や修辞文法、さらには現代言語学の理論を書き換えられるポテンシャルがある。本発表では、その例として文末表現、内面の表現法、節の連鎖の仕方について考える。

〔基調報告②〕

感覚を表す用言と『源氏物語』の語り

富澤萌未

『源氏物語』の研究においては、物語の内容が分析されるだけではなく、どのように語られるのかが早くから注目されてきた。特に、語り手なのか登場人物なのかわからない、両者が一体化するような、語る位置があいまいな語りについての研究が多く積み重ねられている。しかし、その語りがどうして生まれるのか、用いられる言葉に注目して論じたものは少ない。本発表では、形容詞、形容動詞、知覚動詞などといった感覚を表す用言の働きを確認した上で、それらが『源氏物語』にどのように作用しているのか考える。

〔基調報告③〕

「物語論」、その可能性を押し拓く

髙木　信

「物語論」はテクストを享受者が批評的に解釈するときに有効な視座となる。解釈主体同士での共通言語としても必要なものだ。ただ「物語論」と言ったときのイメージは未だ振れ幅が大きいだろう。物語の文法レベルから意味論レベルまで。言説分析から形態分析ま

で。一義的意味から多義的な意味まで。しかし、複数のレベルを横断し複合していくことが重要であろう。静態的な文法記述、一義的な意味の確定と動態的な構造の変容、あるいは複数の意味生成の場を生きることとが、同時に可能となるはずだ。今回は中世文藝の話法を起点としながら、享受者のレベルでの〈意味〉の生成と、可能ならばそこに留まらない逸脱する〈意味〉について論じてみたい。

研究発表要旨

5 月 26 日（日）

〔研究発表①〕

『源氏物語』における明石の君の待遇表現

開成中学校・高等学校／早稲田大学［院］　**新井　隆**

物語世界に登場した当初、明石の君に対して語り手から敬語が使用されることはなかった。しかし、明石の君に対する待遇表現は、明石を出立する場面以降少しずつ変化し、明石の姫君の入内など、状況の変化とともに、敬語が多く見られるようになっていく。ただし明石の君に対する敬語の有無は安定することがなく、地位の上昇という観点からだけでは説明できるものではない。この点については、相対的な地位の低さから光源氏や紫の上などと関係する場合には敬語が使用されない傾向があること、一方で明石の姫君の母という面が強調される個所では敬語の使用が多いといったことが既に先行研究によって明らかにされている。さらに、用例を細かく検討した先行研究では、場の雰囲気や明石の君の心理的なあり方と待遇表現が関係していることも論じられてきた。

本発表では、明石の君への待遇表現について、主に明石の君の動作や様子の面から再検討するとともに、待遇表現と周辺の表現とのつながりについて考察をしていく。そしてその問題から、明石の君に関係する語りのあり方にも言及したいと考えている。当の明石の君自身が周囲からどのように思われるかということに注意を払いながら過ごしていることに留意した上で、語りのあり様から各場面において周囲が明石の君をどのように認識したかを整理し、それが明石の君の意図や意識と重なる様相を明らかにしたい。

〔研究発表②〕

『源氏物語』外戚大臣家の没落 ――女君の「末の世」「世の末」の意識を端緒として――

東京大学［院］　**宮内理伽**

『源氏物語』には、左大臣家・右大臣家を始めとして、六条御息所の大臣家、鬚黒の大臣家、頭中将家など多くの大臣家が登場するが、これらの家は概して後宮政策によって権力掌握を図る。物語は、摂関政治が確立しつつあった平安中期の政治社会構造を背景に、虚構の政治世界を作り上げていくのだが、藤原摂関家が隆盛を極めた史実とは異なり、物語に登場する外戚大臣家の多くは、その勢力が減衰していくことになる。

本発表は、大臣家出身の六条御息所や弘徽殿大后が没落した我が身を嘆く「末の世」「世の末」という表現を端緒に、外戚大臣家の没落を描く意義について考究していく。「末の世」「世の末」は、末法思想とも繋がりの深い言葉であるが、その人の晩年という意味合いでも用いられる。物語は、賢木巻の六条御息所や少女巻の弘徽殿大后の内面描写の中でこの語を用いるのだが、「末の世」「世の末」の嘆きは、后になることを望まれながらも思うようにならなかったことに根差している。こうした大臣家出身の后妃の敗北は源氏の后が三代にわたって続くことのいわば裏返しであり、外戚大臣家の没落への注目は、光源氏の栄華の内実を考えることにも繋がっていく。『源氏物語』は一世源氏の栄華と外戚大臣家の没落を描く虚構の政治世界をいかに構築しているか、その方法について明らかにしていきたい。

〔研究発表③〕

紫の上の宿世について ――藤壺との対比と『源氏物語』の構造――

国際日本文化研究センター［博士研究員］　**石原知明**

本発表では、『源氏物語』において、紫の上が「宿世」の言葉を用いる回数が少ないという点に着目し、紫の上には意図的に「宿世」という言葉が用いられなかったのではないかと仮定する。そして、その意図は物語の構造に関わる問題なのではないかと考える。

「宿世」についての研究は、「契り」の言葉と共に、前世で決まられていることが現世に影響を与えるという当時の人生観と、仏教思想との関係から『源氏物語』の主題に関わるキーワードの一つとしてこれまで多く論じられてきた。それは、作中で「宿世」という言葉が散見され、作中での影響が著しいということが、その理由の一つである。

作中多くの登場人物が、自らのまたは、他者の「宿世」を意識している。もちろん男女差や身分の違い、そもそも登場する回数にも差があり、一様であるとは言えない。しかしながら、そのなかで、紫の上が自らの宿世を思う用例は一例のみしかない。これは第一部と第二部にわたって多く登場する人物としては少ない回数なのではないかとの印象を受ける。それに対して、藤壺は自らの宿世を思う場面が繰り返されているのは象徴的な事象ではないだろうか。

宿世への深い自覚から出家を果たした後、自らの人生を「高い宿世」であったと自覚して物語から退場する藤壺と、最後まで自らの「宿世」を捉えることができず物語から退場する紫の上。これが対照的な構造として物語に組み込まれていることを考察する。

〔研究発表④〕

「若菜上・下」巻における二つの算賀の〈差異〉をめぐって

――「四方四季」に配された六条院の、各町の空間配置との係わりから――

神奈川大学［名］　**深澤　徹**

「若菜上」で語られる光源氏四十賀と、同じく「若菜下」で語られる朱雀院五十賀については、その史実との対応関係を考える「準拠論」が、従来の研究では主流を占めてきた。

それに対し本発表では、武者小路辰子「若菜巻の賀宴」(『源氏物語 生と死と』武蔵野書院、1988）に指摘のあった、算賀を行う主催者側（算賀を受ける側ではなく）に焦点を当てた視点に再度立ち返り、六条院の各町に〈住まい〉をあてがわれた女性たちの、確執の〈場〉としてこれをとらえ返したい。

袴田光康「『源氏物語』の六条院と四季の庭」(『語文』170、2021）によれば、白楽天『草堂記』に始まり慶滋保胤『池亭記』に到る、儒教的な隠者の〈住まい〉の系譜に、六条院は位置づけられる。算賀を受けるのを好まない光源氏の、私事（わたくしごと）へと抑え込もうとする態度の遠因をそこに求めるとしたら、その対極には朱雀院五十賀が位置付けられる。それは公事（おおやけごと）として、極力盛大に行われる必要があった。にもかかわらず何度も延引され、そこにモノガタリのアイロニーを見てとりたい。

なお光源氏四十賀は、それぞれ主催者（玉鬘、紫上、秋好、夕霧）を違えて、四回行われる。それが「四方四季」の各町と、見事な照応関係にあることを、あらかじめ付言しておく。

〔研究発表⑤〕

「落葉宮論」の前提

大阪大学［院］　**飯田実花**

朱雀院女二宮、通称「落葉宮」に関する研究は、「皇女の結婚」というテーマを中心に、女三宮と対比的に進められてきた。また、結婚を拒否する姿や小野という土地の設定、母子の関係などから、朝顔斎院・大君・浮舟といった他の女性登場人物の造型との関わりも指摘されてきた。こうした蓄積がある一方で、落葉宮の「内親王」という身分は、これまで十分に注意が払われてこなかったのではないか。もちろん、「皇女の結婚」というとき、その背景には落葉宮が内親王であるという意識が働いているだろう。しかし、当時の内親王の社会的な待遇や経済状況までも踏まえた議論がなされているとは言い難く、女王や社会的身分を持たない女君たちと同列に考えられてきたと思しい。そしてこのことは、単に研究史上の問題というだけでなく、「下臈の更衣腹」「落葉」と落葉宮を形容する、物語内の表現とも関係していよう。

以上の問題意識から、発表ではまず、歴史学の先行研究を踏まえながら落葉宮の「内親王」としての社会的な立場を考察する。そのうえで物語内の落葉宮に対する形容表現・呼称について、誰が、どのような状況で、どのように表現しているのか、という観点から検討を加える。これによって、必要以上に他の登場人物に軽視され、身分が低いかのように描かれているという、叙述の特徴を指摘し、こうした特徴を理解したうえで落葉宮論を進めていく必要があることを示す。

■ アクセスマップ ■

●JR 武蔵小金井駅・北口より

【京王バス】

〔５番バス停〕「小平団地」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車。

〔５番バス停〕「国分寺駅北口」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車。

※本数が少ないためご注意ください。

〔６番バス停〕「中大循環」に乗車、約10分。「学芸小前」下車。

※このバス停に一番近い大学の門は「東門」です。

【徒歩】約25分

●JR 国分寺駅・北口より

【銀河鉄道バス】

〔２番バス停〕「小平駅南口」行に乗車、約10分。「学芸大学・辻調理師専門学校 東京」下車。

※このバス停に一番近い大学の門は「北門」です。

【京王バス】

〔５番バス停〕「武蔵小金井駅北口」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車。

※本数が少ないためご注意ください。

【徒歩】約20分

●西武新宿線小平駅・南口より

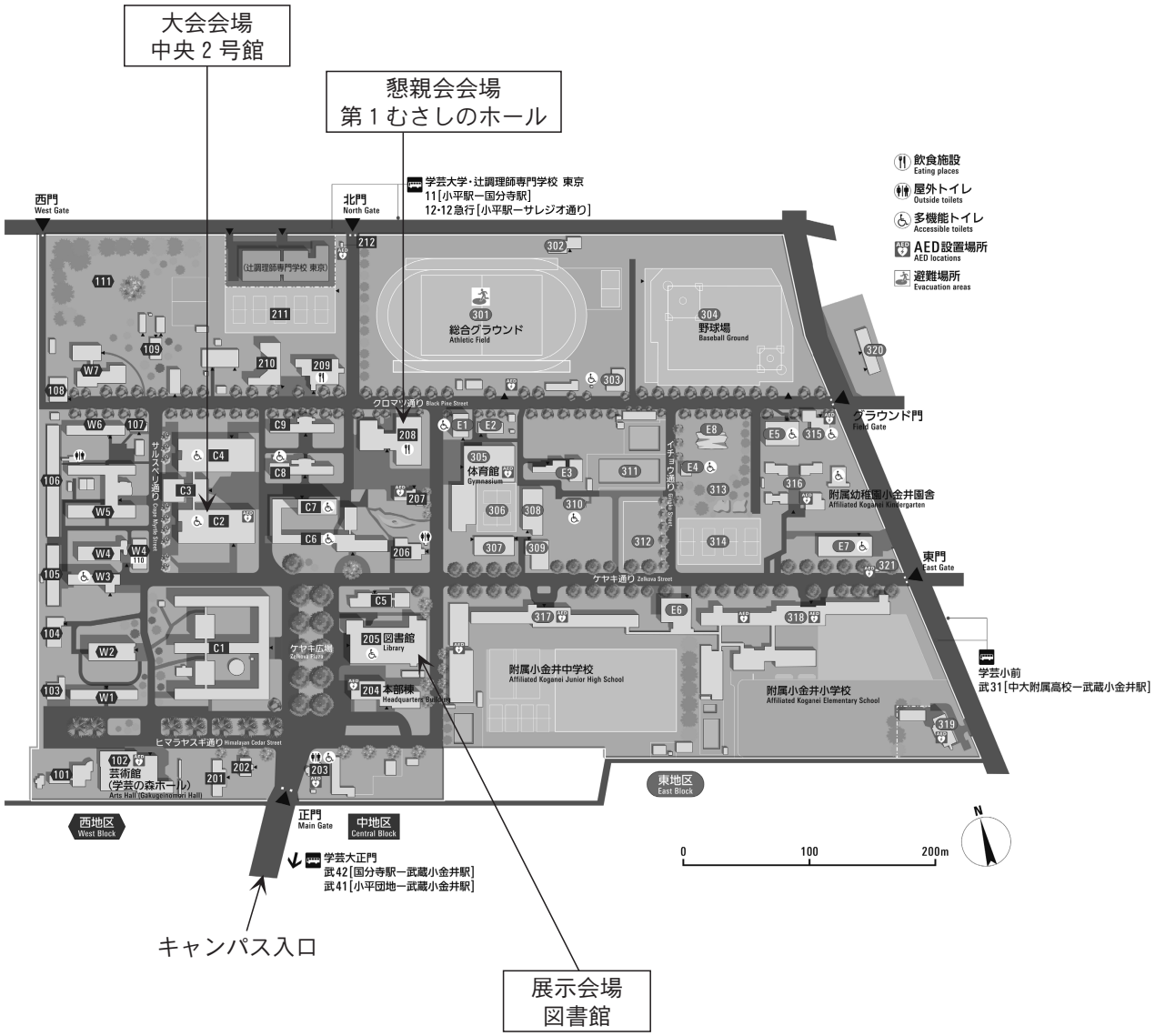
【銀河鉄道バス】

「国分寺駅北口」行に乗車、約15分。「学芸大学・辻調理師専門学校 東京」下車。

※このバス停に一番近い大学の門は「北門」です。

※関係者以外の自動車での入構を遠慮いただいておりますので、お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

■ キャンパス案内図 ■


大会会場
中央２号館
懇親会会場
第１むさしのホール
キャンパス入口
展示会場
図書館
西門
West Gate
北門
North Gate
学芸大学・辻調理師専門学校 東京
11[小平駅ー国分寺駅]
12・12急行[小平駅ーサレジオ通り]
飲食施設
Eating places
屋外トイレ
Outside toilets
多機能トイレ
Accessible toilets
AED設置場所
AED locations
避難場所
Evacuation areas
総合グラウンド
Athletic Field
野球場
Baseball Ground
グラウンド門
Field Gate
東門
East Gate
体育館
Gymnasium
附属幼稚園小金井園舎
Affiliated Koganei Kindergarten
附属小金井中学校
Affiliated Koganei Junior High School
附属小金井小学校
Affiliated Koganei Elementary School
学芸小前
武31[中大附属高校ー武蔵小金井駅]
図書館
Library
本部棟
Headquarters Building
芸術館
(学芸の森ホール)
Arts Hall (Gakugeinomori Hall)
ケヤキ広場
Zelkova Plaza
正門
Main Gate
学芸大正門
武42[国分寺駅ー武蔵小金井駅]
武41[小平団地ー武蔵小金井駅]
西地区
West Block
中地区
Central Block
東地区
East Block
クロマツ通り Black Pine Street
サルスベリ通り Crape Myrtle Street
イチョウ通り Ginkgo Street
ケヤキ通り Zelkova Street
ヒマラヤスギ通り Himalayan Cedar Street
0
100
200m
N